気候変動によって起こる災害に対する住民参加型の環境保全活動（バングラデシュ・モヘシュカリ島）

Bangladesh POUSH*（バングラデシュ ポーシュ）

Bangladesh POUSH
10/10, Iqbal Road, Block-A, Mohammadpur, Dhaka, Bangladesh
http://www.bdpoush.org/
頻発する洪水の影響を受ける地域において、住民参加型の環境保全活動と環境教育を行う。（一般助成）

＊ POUSH は、ベンガル語で環境保全を行うNGO という意味の文の頭文字

環境保全活動から学ぶ自然との共生

バングラデシュの首都ダッカから高速バスで南下すること11時間、ミャンマーとの国境近くの町からドルガダ村のあるモヘシュカリ島へは、さらにバスで2時間、ボートで1時間掛かります。もともと雨季になると国土の3分の2が水につかるというバングラデシュですが、その中でもこの地域は特に低地です。近年は気候変動によって起こる海面上昇やサイクロンによる洪水で、湿地を利用した魚の養殖（雨季）、製塩や稲作（乾季）を主な産業とする現地の人々の生活に影響が及んでいます。

バングラデシュ ポーシュはそのような状況にあるドルガダ村で住民集会を定期的に開催し、「なぜサイクロンの被害が大きくなったのだろう」「なぜマングローブ（※）がなくなってしまったのだろう」といった問題意識を現地の人々にもってもらうことで、環境保全のための知識と技術の定着を目指しています。例えば、ドルガダ村では村周辺の野生マングローブが大きなダメージを受けてしまっています。それは、炊事のためのまきや、養殖池を拡大させるために伐採し続けた結果です。そこでポーシュは、現地の人々と近隣の島から調達してきた種で苗を育て、村の周囲に移植する活動を行っています。それによって、現地の人々に栽培技術の習得と、高波や高潮から村を守る天然の防波堤にもなっているマングローブの大切さを伝えています。

マングローブ苗木（左）と成長したマングローブ（5年経過、右）

また、現地の子どもたちに対しては、「ノンフォーマルスクール」を開設しています。近くに学校のない子どもたちや、漁業や農業を手伝わなくてはならない子どもたちのための寺子屋のようなもので、貴重な学びの場となっています。授業では豊かな生態系の源であるモヘシュカリ島の湿地のすばらしさについて教えられるとともに、サイクロンや高波など厳しい自然環境の中でどのように生活していくかといったことも教えられています。

このような活動によって、現地の人々は災害への対策だけでなく自然との共生についても学んでいます。

ノンフォーマルスクールは、学校に通うことが困難な子どもたちを集め、地域の避難場所であるサイクロンシェルターで行われている

※マングローブ：熱帯から亜熱帯にかけての塩性湿地にできる森林のこと。